アレクサンダー・ガジェヴは、すでに日本の聴衆にとって特別な存在となりつつある。彼がキャリアをスタートさせるきっかけとなったのも、この日本で2015年に開催された浜松国際ピアノコンクールでの優勝だった。彼はこれを皮切りに、2021年の第18回ショパン国際ピアノコンクール第2位、同年のシドニー国際ピアノコンクール優勝と、まさに国際的な舞台で輝かしい足跡を刻んできたピアニストだ。演奏は常に、詩的な繊細さと精神的な深さを兼ね備え、楽譜を超えた何かを静かに語りかけてくる。今回ラフマニノフのピアノ協奏曲第2番を彼がどのように描き出すのか—ガジェヴの手に託されたラフマニノフは、言葉を超えて、音楽だけが到達できる場所へと導いてくれることだろう。

共演するスロヴェニア・フィルハーモニー管弦楽団は、1701年創設のアカデミア・フィルハーモニコルムを起源とし、ヨーロッパで最も長い伝統を持つオーケストラのひとつ。ハイドンやベートーヴェン、ブラームスらを名誉会員に迎えた輝かしい歴史を持ち、18世紀から現代に至るまで多彩なレパートリーを高水準で演奏し続けてきた。今回の来日は、その響きを日本で体感できる貴重な機会だ。

タクトを執るカーキ・ソロムニシヴィリは1990年ジョージア・トビリシ生まれ。ピアニストとしてキャリアをスタートさせたのち、若くしてトビリシ歌劇場やジョージア・フィルの指揮者として活躍し、2024年よりスロヴェニア・フィルの首席指揮者に就任。構築的な音楽設計と情熱的な表現を兼ね備え、国際的にも注目を集める存在だ。

このように、これからの世界の音楽界を担うであろう若手の共演に加えて、スロヴェニアを代表する現代作曲家ニーナ・シェンクによる作品が演奏されることも非常に楽しみである。近年、彼女が作曲した《Baca》がBBC Promsで演奏されるなど、国際的にも注目を集めており、その鋭敏な音響感覚と構築性は高く評価されている。本公演の幕開けを飾る《静けさの影》では、緊張と沈黙のあわいに広がる繊細な美学が、演奏会全体に深い陰影と余韻をもたらすことだろう。過去と現在が響き合うこのステージに、大きな期待が寄せられている。

大井 駿（指揮者・ピアニスト・古楽器奏者）

SLOVENSKA FILHARMONIJA

©Dejan Bulut

カーキ・ソロムニシヴィリ（指揮）
Kakhi Solomnishvili, conductor

1990年5月9日、ジョージアのトビリシに生まれる。ソロムニシヴィリの音楽人生は、コンサートとフェスティバルに活発に参加するピアニストとして始まった。2011年にトビリシ・オペラ・バレエ劇場のアシスタント指揮者の役割を担う。2014年より同劇場の指揮者を務めている。2016年からジョージア・フィルハーモニー管弦楽団との活発な共演活動に従事し、2017年に指揮者に就任する。2023年よりスロヴェニア・フィルハーモニー管弦楽団と活発に共演し、2024年には首席指揮者に就任。その他にもポーランド・バルティック・フレデリック・ショパンフィルハーモニー管弦楽団、イスラエル・シンフォニエッタ、ジョージアン・シンフォニエッタ等、様々な国立オーケストラや国際的なオーケストラと共演している。

©Andrej Grilc

アレクサンダー・ガジェヴ（ピアノ）
Alexander Gadjiev, piano

音楽家の両親のもと、イタリアのゴリツィア生まれ。スロヴェニアの国境からほど近く、多様な文化、言語が交差する街で育ったことはガジェヴの才能に影響を与えた。9歳でオーケストラと共演、10歳でリサイタルを開き、浜松やモンテカルロ、シドニーのコンクールでの優勝を経て、2021年にはショパン国際コンクールで2位となる。これまでルイージ指揮/RAI国立響、ゲルギエフ指揮/マリインスキー劇場管、メータ指揮/フィレンツェ五月音楽祭管をはじめ、指揮者ではテミルカーノフ、ヴィット、井上道義、広上淳一、山田和樹らと共演。2024年のウィーン楽友協会でのスロヴェニア・フィルとの共演も大成功を収めた。国際音楽祭への出演も多い。2024年から毎年ロンドンのウィグモアホールでリサイタルを行う。

©Iztok Zupan

スロヴェニア・フィルハーモニー管弦楽団
Slovenian Philharmonic Orchestra

前身であるアカデミア・フィルハーモニコルム、フィルハーモニー・ソサイエティ、初代スロヴェニア・フィルハーモニーと共に、スロヴェニア・フィルハーモニー管弦楽団は同種の団体としてはヨーロッパで最古の一つであり、豊かな伝統を誇る。1947年に本格的に動き出し、それ以前の1世紀半の間フィルハーモニー・ソサイエティによって特徴づけられた豊かなコンサートの日常をよみがえらせた。カルロス・クライバー、リッカルド・ムーティ、シャルル・デュトワ、ダニエル・ハーディング等の客演指揮者のみならず、スロヴェニア人常任指揮者、さらに国際的な名声を誇る偉大なソリスト達に負うところが大きい。2019年からはリュブリャナ・フェスティバルのレジデント・オーケストラを務めている。

〈特別割引チケットのお知らせ〉
ジャパン・アーツぴあ及び横浜公演は神奈川芸術協会でも受付

◎シニア割引（公演当日65歳以上）：S席を¥15,000、A席を¥12,000でお求めいただけます。

◎学生割引（横浜公演のみ／社会人学生を除く公演当日25歳以下）：各ランク半額にてお求めいただけます。残席がある場合に限り、10月27日（月）10:00より受付を開始します。当日は学生証を提示のうえご入場ください。（学生証がない場合、一般価格との差額を頂戴します。）

◎車椅子の方は、本人と付き添いの方1名までが割引になります。（WEBでの取扱い無し／東京公演はジャパン・アーツぴあコールセンターにて、横浜公演は神奈川芸術協会にて受付）

𝕏（Twitter）@japan_arts

スロヴェニア・フィルハーモニー管弦楽団 来日公演

11月28日（金）東京芸術劇場コンサートホール　［問］ジャパン・アーツぴあ 0570-00-1212
11月29日（土）ザ・シンフォニーホール　［問］ABCチケットインフォメーション 06-6453-6000
11月30日（日）武蔵野市民文化会館　［問］武蔵野文化生涯学習事業団 0422-54-2011

〈次のことあらかじめご承知の上、チケットをお求めくださいませ〉①やむを得ない事情により、出演者・曲順・曲目等が変更になる場合がございます。②公演中止を除き、お買い求めいただきましたチケットのキャンセル・変更等はできません。③いかなる場合もチケットの再発行はできません。紛失等には十分ご注意ください。④演奏中は入場できません。⑤未就学児の同伴はご遠慮ください。また、就学児以上のお子様もご入場には1人1枚チケットが必要です。⑥全席指定です。指定のお席でご鑑賞ください。⑦客席内での写真撮影・録音・録画・携帯電話等の使用は固くお断りいたします。⑧ネットオークションなどによるチケットの転売は、トラブルの原因となりますのでお断りいたします。⑨他のお客様の迷惑となる場合、主催者の判断でご退場いただく場合がございます。